

株式会社ジェイコム千葉 東葛・葛飾局

2022 年度 放送番組審議会 議事録

2022 年度のジェイコム千葉 東葛・葛飾局放送番組審議会は、2023 年 3 月 28 日(火)に東葛・葛飾局 1 階会議室 A にて開催された。

<放送番組審議会委員>

■ご出席

小林 俊樹 様

志賀 進一 様

長江 曜子 様

平林 大介 様

■ご欠席

入江 和彦 様

染谷 光雄 様

(50 音順)

<放送番組審議会会長の選出> (事業者事務局)

会長に小林委員を選出した。

<J:COM チャンネルご報告> (事業者担当)

事業者側から今年度の J:COM チャンネルでの以下番組について報告を行った。

・LIVE ニュース

・WEEKLYトピックス

・松戸花火大会 イン 2022

・第 74 回 東葛飾地方中学校駅伝競走大会(東葛駅伝)

・第 5 回 J:COM 旗争奪 学童軟式野球大会(第 47 回 松戸市少年軟式野球連盟秋季大会)

・つながる NEWS

・ジモトに乾杯!居酒屋小塚クン

・第 104 回 全国高校野球選手権千葉大会 生中継

・GREEN ROCKETS TRY STATION

・MARINES FREAKS

・千葉ジェッツ公式応援番組 ジェッツだぜ

- ・ジェフユナイテッド市原・千葉応援番組 ジェフ1
- ・ふくあじ
- ・ちばのミライ～知事室へようこそ～

<質疑応答・意見交換> (小林会長による進行)

委員

- ・J:COM チャンネルには、なじみのある番組が多数ある。
- ・コロナ禍だからこそその進化が番組にも見られ、地元感あふれる構成を評価している。
- ・また、J:COM 未契約者でも気軽にスマホ(アプリ)で見られることも評価している。
- ・LIVE ニュースに地元大学の学生たちが出演したことで、彼らに達成感・自己肯定感が得られた様子が伺えたことから、こうした地元の方に出演していただける番組が市民の力になると思う。
- ・食文化は奥深いので、「ふくあじ」は非常に良い番組である。地元でみんなが愛するお店を食レポート形式ではなく、お店に集う人が出演するスタイルが良い。
高級ではなく庶民的なお店を取り上げることで、地元住民への力につながる。
- ・地域防災情報に感謝している。災害弱者をいかに安全に避難させるかを解決してくれる役割を J:COM が担っている。

事業者

- ・大学も取材させて頂いている。

委員

- ・東葛エリアには大学も多数あるので、キャンパス巡り番組も良いかもしれない。
若者が何を考えているか、地域課題と解決策を考える良い機会になると思う。

委員

- ・番組作りもコロナ禍で相当な苦労があったと思われるが、今後コロナ禍が明けてくると思われるので、今まで以上に地元取材をしていただけることに期待している。
- ・ニュースなどは、スポーツが中心となっているように感じられるので、同様に文化面も取り上げて子どもたちの頑張る姿を見せてあげて欲しい。
- ・地元で名の売れたお店が良く取り上げられているが、地元で愛されている老舗も多いので、そうしたお店も取り上げて欲しい。
- ・ラジオは聴取者参加型番組が多いので、J:COM でも視聴者参加型番組があると面白いと思う。
- ・エリア特化番組も良いが地方番組の相互放送があると、非常に勉強になることが多いと思う。

委員

- ・ど・ろーかるアプリがとても良い。手軽にどこでも見られる手法は今の時代に合っており、素晴らしい。特に「ジモトに乾杯！居酒屋 小塚クン」を良く見ている。アプリであれば、若者も手軽に視聴ができる。
- ・「LIVE ニュース」(現在形)、「WEEKLY トピックス」(過去形)、も視聴者にとっては使い分け(視聴分け)ができる点が良い。
- ・「LIVE ニュース」の撮影場所を知らない方が多いのではないかと。もう少し告知しても良いと思う。
- ・「松戸花火大会」は今年度については、縮小開催で抽選観覧だったので、外れた方も視聴できて有意義であったと感じている。
- ・「東葛駅伝」のスタート地点で観戦していたが、テレビ取材があることは子どもたちの励みになっていると感じた。
- ・ラグビー、野球、バスケ、サッカー、地元応援番組も非常に良いと思う。
- ・観光協会の情報をできる限り発信していただける姿勢に感謝している。

会長

- ・コロナ禍前に比べ番組がブラッシュアップされているように感じられる。
- ・スポーツ偏重のみならず、文化活動も幅広く伝えて欲しい。
- ・「LIVE ニュース」は以前よりアプローチが身近になっている、地上波では知り得ない情報を知ることができる。
- ・「LIVE ニュース」と「WEEKLY トピックス」の違いがいまひとつ曖昧な感じを受ける。
- ・「伝える」番組が大事であるが、「知る」部分をもう少し入れても良いと感じる。
- ・なぜ葛飾には「LIVE ニュース」がないのか。

事業者

- ・「LIVE ニュース」はキーステーションにゲスト・関係者を呼んでいる。
2022年度はキーステーションへおよそ1,000人お越しいただいており、そのうち半分くらいの方にご出演いただいている。その場では必ずカードサイズのど・ろーかるアプリ告知ツールをお配りし、ダウンロード、視聴の促進をしている。
- ・スポーツ偏重については否めない。今後改善を図りたい。
- ・「LIVE ニュース」と「WEEKLY トピックス」の違いについては、もう少し意識していきたい。
- ・視聴者参加型番組については、現状生放送25分尺の中で視聴者投稿要素を入れ込むことが困難な状況であるが、将来的に番組尺を検討し考えていきたい。J:COM テレビで放送中の「笑福亭鶴光のオールナイトニッポン.TV@J:COM」では1時間尺なので、視聴者からのメッセージ紹介等を行っている。

- ・「LIVE ニュース」の生放送場所告知については、コロナ禍での集客による感染拡大への懸念と、公園のそばの場所では集客によって子どもの遊び場に影響が出ることを懸念し、あえて控えている状況であった。コロナ禍の影響等を考え、PRを検討していきたい。
- ・「ジモトに乾杯！居酒屋 小塚くん」については、小塚さんのネームバリューや親近感、お人柄により、ご出演ゲストは非常に気持ちよく出演してくださっている。
- ・「ふくあじ」の店舗選定については、弊社側のリサーチも追いつかず、今後改善したいと考えている。

事業者

- ・文化面の取り上げについて、今年度「つながる NEWS」にて部活の紹介を行ったことがあった。表にはあまり出ないが頑張っている部活を紹介し、学校から感謝をいただいたり他エリアの方からも興味深いとの意見をいただいた。今後、定期的にも実施することも検討したい。

委員

- ・J:COM の番組制作の努力を肌で感じている。
- ・部活の紹介は興味深い。昨今、部活動が衰退しつつあるので、番組を通じて部活を盛り上げていくことができるのではないかと思う。引き続き継続していただくことを希望する。
- ・大学等もコロナ禍でオンラインとのハイブリッドが多くなっていたが、そろそろコロナ禍で休眠していた部活を復活させる動きも出てきている。こうした活動を通じて若者たちが自身の人生を豊かにできることができると考えており、J:COM がその橋渡しの役割を担ってもらいたいと期待している。

委員

- ・ど・ろーかるアプリはかなりの頻度で使用しているが、先日知り合いが出演している番組があったが知る術がなかったので、例えばエリアの出演者情報を同じエリアの方にメール通知やプッシュ通知する機能があると、視聴のきっかけになると感じた。

委員

- ・番組制作において、常にいろいろな工夫や苦勞をしていることを本日の説明でよく理解ができた。

委員

- ・今後、街の産業、伝統技術を知ってもらえる番組があっても良いのではないか。
- ・ニュース系の情報を伝える番組のみならず、独自で制作している番組も今後審議会で取り上げても良いかと思う。

<閉会>（事業者事務局）

本日頂戴した番組に対する貴重なご意見・ご要望を今後の番組制作に活かしていくことを事務局よりお伝えし、放送番組審議会を終了した。